

編集後記

ローマ法雑誌第3号をお届けします。

今号は、査読付き論文1本、彙報には特別寄稿と書評6本、学界動向として国際学会参加記と、前号同様、日本ローマ法研究会の大会概要を掲載しました。加えて、創刊号掲載の書評に対する応答(反論)も寄せられ、《反批判》欄を設けました。

これにより、雑誌掲載論文、大会報告、書評、反論からなる学術フォーラムが実現したことになります。

書評には、史学の動向が反映されると共に、新たな試みとして、リポジトリ公開の博士論文を対象とした寄稿を得ました。賛否は分かれますが、これも研究成果「公開」の新方式とその対応と位置づけます。

多くの学会が、オンライン開催を余儀なくされています。ローマ法関係も例外でなく、日本ローマ法研究会大会も残念ながら対面開催を断念しております。その中で、対話を継続することの重要性を、寄稿を通じ再認識したところです。

投稿、査読、大会報告や司会・質疑への参加など、各位にはご協力を賜りました。御礼申し上げます。御礼申し上げます。

本邦ローマ法学界は、ドイツ語圏との関連・協働も長い伝統を有します。特別寄稿は、その中で生まれた邦訳論文の原著を、広く提供したいとの意図に応えたものとなっております。邦語以外での投稿も歓迎します。寄稿は全て査読や審査を経ますので、事務局までご相談ください。

本誌は、実定法学研究者との協力も目指しております。各位にも、よろしくご協力方、お願いします。(佐々木健)